

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

新会長就任のご挨拶



北海道博物館協会会長
北海道開拓記念館館長 山田家正

会員の皆様には益々御清祥のこととお慶び申し上げます。日頃、北海道博物館協会の事業にご貢献頂き、また北海道開拓記念館の活動に種々ご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

私は、本年6月1日付けで開拓記念館館長に就任致し、同時に道博協の会長を仰せつかることになりました。微力ではありますが、今後皆様のご協力とご叱咤を頂き会長および館長としての職責を果たしたいと念願しておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

博物館や美術館等は、従来から地域の教育文化の発展に寄与して参りましたが、生涯学習時代を迎えて今後益々重要な役割を果たすことが期待されております。道博協の会員同士が、今後さらに連携を深め先進的な企画や特別展によって来館者の皆様に新たな知的感動を味わって頂けるように出来ればと念じております。

ここ数十年で国内各地の博物館、美術館等は飛躍的に充実してきましたが、最近はいずれも財政難に直面して運営に苦慮しております。効率化にも限界がありますので、今後は個性化を強めるなど質的充実の方向を目指す段階にきていると思われれます。開拓記念館の場合も、特色を明確にして道民はもとより各地から研究者が従来にも増して多数来訪してくれるような拠点になればと念願しております。

私の博物館業務についての知識と言え、専攻分野が藻類学、海藻学で、調査研究、資料収集、標本作製、整理保存等の経験をしたこと、昨年から国立科学博物館の外部評価委員会委員としての博物館の運営、展示、研究などについて考える機会を持ったことしかありません。また、勤務先も国立大学だけでありましたので、道立施設の勤務は初めてであります。今後皆様方からご教示を頂きながら緊張感をもって責務を果たしたいと思っております。

第41回北海道博物館大会 7月11・12日、札幌市で開催

第41回北海道博物館大会および平成14年度北海道博物館協会総会を北海道開拓記念館、北海道開拓の村、日本博物館協会北海道支部との共催で、札幌市の北海道開拓の村で開催いたします。札幌市での開催は昭和54年第18回大会以来となります。会期 平成14年7月11日(木)～12日(金) 会場 北海道開拓の村 ビジターセンター

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌50-1
電話 (011) 898-2692

大会テーマ 開かれた博物館をめざして

大会日程 7月11日(木) - 1日目-

- ①受付 開拓の村管理棟ホール 9:30～10:00
- ②開会式 10:00～10:30
- 1) 主催者挨拶 北海道博物館協会会長
 - 2) 祝辞 日本博物館協会会長
北海道教育委員会教育長
- ③平成14年度北海道博物館協会総会 10:30～11:15
第1号議案(平成13年度事業報告)、第2号議案(平成13年度会計収支決算報告・会計監査報告)、第3号議案(平成14年度事業計画案)、第4号議案(平成14年度会計収支予算案)、第5号議案(平成14年度特別会計収支予算案)、第6号議案(第42回北海道博物館大会の開催地について)、第7号議案(その他)
- ④平成14年度北海道博物館協会表彰 11:15～11:25
・北海道立旭川美術館ボランティア常磐会
・北海道立オホーツク流氷科学センター流氷倶楽部(友の会) 山原良一氏
- ⑤特別報告 11:25～12:00
「日本博物館協会の主要事業と最近の動向について」
報告：財団法人日本博物館協会
専務理事 五十嵐 耕一氏
- ⑥昼食 12:00～13:00
- ⑦特別講演 13:00～14:20
演題：博物館と観光
講師：札幌国際大学 観光学部長 奥平 忠志氏
- ⑧シンポジウム 14:30～16:50
テーマ：開かれた博物館をめざして
司会：北海道浅井学園大学 教授 三野 紀雄氏
パネリスト1 生涯学習の視点から－高齢社会における博物館のあらたな試み－

法政大学文学部 助教授 金山 喜昭氏
パネリスト2 学校の視点から－学校教育との連携をめざして－

北海道開拓記念館 教育振興課長

村上 孝一氏

パネリスト3 地域の視点から

1) ボランティアによる常設展示リフォームをとおして
斜里町立知床博物館 学芸員 宇仁 義和氏

2) 体験学習事業をとおして

北海道開拓の村 学芸員 中島 宏一氏

⑨閉会式 16:50～17:00
次期大会開催地挨拶、主催者謝辞

⑩懇親会(アークシティホテル) 18:00～20:00
7月12日(金) - 2日目-

①見学バス、JR新札幌駅出発(地下鉄9番出口、
社会保険病院側) 9:15

②施設見学受付 開拓記念館入口 9:30～10:00

③開拓記念館第54回特別展開会式・見学
10:00～11:00

④北海道埋蔵文化財センター 11:15～11:45

⑤自然ふれあい交流館 11:55～12:15

⑥JR新札幌駅解散 12:30

生涯学習社会、高齢化、情報化、国際化の進展にともなって、市民生活も大きく変化し、地域に根ざした生活文化が模索されはじめ、博物館が市民生活の中にどう関わるのかが問われています。また、学校教育に目をむけると、平成14年度から完全週休2日制が実施され、総合学習の時間が導入され、その対応に博物館等の活動が期待されております。

平成14年3月に開催した第3回役員会における、大会テーマの設定をめぐる論議で、当分の間「開かれた博物館をめざして」というテーマで大会を開催し、様々な角度からの「開かれた博物館」づくりを検討しようと決定されました。

平成3年に『開かれた博物館をめざして』(国立科学博物館編集)が刊行されて以来、各館園が様々な取り組みをとおして「開かれた博物館」づくりをめざしているかと思えます。

多くの会員の参加をいただいたシンポジウムのなかで、どのようにして「開かれた博物館」づくりをしていくか、各館園での実践例の発表をもとに、改めて皆で知恵を出し合っていきたいと考えております。

開拓の村でお待ちしています。

第41回 北海道博物館大会は 開拓の村で…

北海道開拓の村は、昭和58(1983)年4月16日に開村しました。あれから20年が経とうとしています。はじめは15棟だった村も、今では43棟となり開拓の村もまた開拓がずいぶん進んだ感じがします。時たま、「ここに昔からあった町をそのまま保存しているのですか？」と、まじめな顔で質問を受けることがあります。時間の経過とともに、人工に出来た村が、自然に解け合った存在となってきたのかもしれない。

おかげさまで施設そのものの認知度は高く、観光雑誌、情報誌等でも取り上げられています。“体験的に学べる場所”として紹介されることが多く、遊びながら気楽に家族でカップルで楽しめる場所、という評のようです。靴を脱いでおじゃまできる建物があつたり、道に迷ったらお巡りさんを尋ねたり、道産馬が曳く馬車鉄道に乗ってみたり、季節ごとに変わる自然を楽しんだり、様々な体験をすることが出来るのです。



お巡りさんと一緒に

ところが、最近の修学旅行や小中学校の現地学習は、物作りを体験としてとらえていることが多く、見学ではなく作ることが主眼のような利用の問い合わせが多くあります。現在のところ物作りのメニューとして確立しているのは『伝統遊具づくり』のみで、それを紹介すると「それでいいです。何分で出来ますか？何人出来ますか？200人なんですけど…」といった具合です。何を作りたいかを尋ねると「何でもいいです、そちらの都合のよいもので。」ということになります。全部ではありませんが、このようなことが多くあるのです。

物作り体験が悪いのではなく、ただ作って持ち帰ることが目的ではなく、歴史学習の補てん的なものとして捉えてもらえないだろうか、と思っています。建物が資料で、その資料の中に身を置くことの出来る博物館はめったにないのに、と思い



伝統遊具づくりに挑戦する小学生

つつ、そのすごさに気づいてもらえるよう、見学前のオリエンテーションで動機付けを行っているところです。そして、体験とは何か？学校の博物館利用のあり方を、先生と協同で構築していきたいと考えています。

また、開村当初の見学者は、展示資料と消火器やアスファルトの道路などを現代物と見分けることの出来る方がほとんどでした。子供たちも「昔もこんなものあったの？」と、わざと現代物を指さして笑っていました。しかし、最近ではそんな声も少なくなり昨年の『昔の生活体験・夏』(宿泊体験)では、掛け布団と敷き布団を見分けることの出来ない小学生も…。生活の変化は益々スピードアップしてほんの少し前のことも説明が必要になってきています。そのためにも、些細なことから歴史学習のきっかけを提案し、優しく学ぶことの出来る機会を作っていきたいと思います。

さて、時間とともに確立してきた開拓の村のイメージ『遊びながら気楽に楽しめる場所』でありつづけるために、学校に限らずひろく一般に『ひらかれた博物館』でありたいと…。

平成14年7月11日・12日、第41回北海道博物館大会が、北海道開拓の村で開催されます。今大会のテーマ『開かれた博物館をめざして』に期待して、43棟の建物がそれぞれの歴史とともに皆様をお待ちしております。

(北海道開拓の村 学芸員 黒川 郁)



会場となる旧開拓使札幌本庁舎(ビジターセンター)

「ミュージアムの原点を考える」 話し合い 日胆地区協議会の総会・研究協議

日胆地区博物館等連絡協議会は、さる6月18日(火)に浦河町で総会を開催し、あわせて出席者による研究協議を行いました。

会議に先立って町立郷土博物館を見学。川内基主任学芸員をはじめとする学芸チームの気配りの行き届いた展示解説を受けながら見学しました。

総会では、平成13年度の事業報告・決算、平成14年度の事業計画・予算が提案され、承認されました。新年度の主だった事業としては、博物館職員等研修会(登別市)、協議会ニュースの発行などが予定されています。

続いて、研究協議の場をもち、「ミュージアムの原点を考える」をテーマに、講演とパネル・ディスカッションを行いました。

企画した事務局側の意図としては、テーマにある「原点」に、第一には、博物館学の理論上にあるいは博物館史的な捉え方や括り方で各館圏に共通するであろう原点、第二には、それぞれの施設の設立過程をふまえて大切にすべき個別的な原点、二つの意味を込めての設定でした。生涯学習の観点から、とりわけ学校の完全週五日制移行や総合

的学習の導入・実践が進む中で、他の教育機関と連携する必要性が協調される状況があります。そうだからこそ、あらためてミュージアムとしての原点は何かにこだわり、博物館人としてのアイデンティティを確認するとともに、経営上の課題などを整理しようという問いかけでした。

研究協議の基調講演は、浦河町立郷土博物館協議会の会長であり、日胆地区協議会の副会長でもある黒崎康雄さんが行いました。「浦河町立郷土博物館40年の歩みから」の演題でした。続けてのディスカッションでは、中岡利泰さん(えりも町郷土資料館)から「地域における公立博物館の機能と役割を考える」、武田正哉さん(苫小牧市博物館)から「苫小牧市博物館の土曜ミュージアム」、そして中野蓉子さん(浦河町立図書館)からは「図書館から見た博物館、かくあるべし」という話題提供を受けて、質疑や意見交換を行いました。この催しは一般公開とし、浦河町民の方々にも参加していただきました。

さて、研究協議の成果は如何だったでしょうか。スペースの関係上、省略しますが、原点を探り問い直そうとする真剣な自問や話し合いが、意義のないものであるはずがないのでは。ミュージアムって何でしょうか。どうあるべきでしょうか。

(二風谷アイヌ文化博物館学芸員 吉原秀喜)

富良野市博物館 9月1日 OPEN

富良野市郷土館は昭和43年に開館しましたが、近年施設が狭隘となり、かなり老朽化したことから移設することになりました。移設先は旧富良野農業高校で、富良野市街から15km帯広寄りに離れた山部町の郊外にあります。建物の名称は「富良野生涯学習センター」で、その中に博物館が入ります。博物館の他には各種体験学習施設・多目的アリーナ・ふらの森の教室などがあり、昨年の11月から校舎を全面改築しています。9月1日オープンをめざして目下展示と格闘・苦悶する毎日です。

博物館の常設展示は約800㎡でテーマ1の「富良野の自然」からテーマ7の「戦後の歩み」まで7コーナーに分かれます。博物館の正面には東大演習林、背後には秀峰芦別岳が眺望できる素晴ら

しいロケーションです。なお、10月24日・25日には富良野市において「ミュージアム・マネジメント研修会」が開催されます。数多くのご参加をいただき、博物館をご観覧願えれば幸甚に存じます。なお、新住所は下記の通りになりました。

〒079-1562 富良野市山部東21線12号

富良野市生涯学習センター内 富良野市博物館
電話0167-42-2407 FAX0167-39-6161

(富良野市生涯学習センター所長 杉浦重信)



改装工事中の富良野市博物館

未来の博物館サポーターを育てる 「知床海と森の学校」の試み

「知床海と森の学校」は、町内10の小学校生徒4～6年生を対象に、年間参加を条件に募集、知床の恵まれた自然を素材に生物観察を中心とした連続講座として実施しています。内容は船に乗船してのホエールウォッチングやアザラシ観察会、岩礁海岸での海の生きもの観察会、秋のサケマス観察会、冬のオジロワシ・オオワシ観察会など、地域の特色を生かしたものを中心に年に9回程度行っています。毎年参加希望者が多く、3年目の今年も受付開始から30分で30名の定員に達してしまいました。

知床博物館では観察会や体験講座などさまざまな講座を実施してきましたが、これまでは行事単位で参加者を募集し、その日で完結する形態が多かったため、参加者と博物館とのつながりを保ちにくい面がありました。そのため2年前から年間のシリーズとして植物や考古などをテーマとした連続講座を始めました。「知床海と森の学校」はその小学生版・自然学習版ともいえるものです。

年間講座にすることで、より計画的なプログラムの構築が可能になり、一つのテーマを発展させるなどの学習効果も期待できます。さらに博物館と参加者との関係がより深まることで、彼らが将来、博物館活動を支える中心的存在となることが期待されます。すでに参加者やそのOBが日頃博物館に来館利用する割合は、その他の児童に比べて明らかに高くなっています。小学校を介した児童と博物館の関係から、町内児童と博物館とがより直接的な関係をもつことに成功したように思います。

(斜里町立知床博物館学芸員 増田 泰)



知床海と森の学校

十勝・釧路・根室 地域の情報

5月29日に道東3管内博物館施設等連絡協議会の平成14年度総会が、釧路市立博物館を会場に開催され、今年度の事業計画などが決まりました。

● 平成14年度博物館交流推進会議

会議は十勝管内博物館学芸職員等協議会と共催で、次の日程・内容で開催いたします。
日時：平成14年10月3日(木)～4日(金)

会場：本別町図書館

内容：「学校と博物館」をテーマに、基調講演、事例報告、討論・質疑などを行なう予定です。なお、同会議は多くの参加者を募っていますので、ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

● 道東博物館マップが完成

昨年度の事業として製作に

取り組んできた「道東博物館マップ」が完成しました。マップはB4版両面カラー印刷で25000部を作成、加盟館園に配布し、活用しています。

お問い合わせは道東3管内博物館施設等連絡協議会事務局（帯広100年記念館）までお願いいたします。

(帯広百年記念館 北沢 実)



館 園 紹 介

紋別市立博物館

オホーツク紋別の歴史や文化・産業などの資料を展示・収蔵する新・紋別市立博物館が、市街地中心部に平成14年4月オープンしました。

旧博物館は昭和43年4月に木造2階建てで開館しましたが、建築後30年以上経過して老朽化し、また新しい時代に対応した生涯学習施設としての博物館建設の要望が、多数の市民から寄せられ、平成6年に新博物館の基本構想の作成、平成10年に基本計画設計、平成11年に実施設計と地質調査を行うとともに、この期間、博物館建設市民懇談会や博物館協議会、博物館友の会等の各関係団体・機関と、施設の内容、展示構想、事業展開等のあり方について協議を重ね、意見・要望をとり入れながら建設計画の概要がまとめられ、先人の築いた歴史や文化を学び後世に引き継いでいく教育学習施設として、展示や教育普及、資料の保存や調査研究をするとともに、市民の学習や創作活動の場として、さまざまな学習機会や情報を提供し、生涯学習を支援する中核施設として平成12、13年度の2カ年で建設されました。

場所は市役所、文化会館・図書館、市民会館などが集中する生涯学習文化ゾーン中心部の旧鉄道跡地に建設され、敷地面積は5,897㎡、鉄筋コンクリート造2階建て、延床面積は2,095㎡、建設事業費は13億1810万円です。

各室は常設展示室597.6㎡、収蔵展示室165.6㎡、特別収蔵室34.8㎡、ホール158.1㎡、市民ギャラリー118.7㎡、郷土学習室98.6㎡、工芸室95.0㎡、窯室49.2㎡、ボランティア室43.3㎡、資料整理室79.2㎡、荷解室75.6㎡、その他734.1㎡で、ホール、市民ギャラリー、郷土学習室、工芸室、窯室などは有料で一般利用もできるようになっています。

展示構成は紋別を特徴づける「ハマ(海＝紋別の漁業)」「オカ(陸＝紋別の生活・産業)」「ヤマ(山＝紋別の鉱山)」の三大テーマ展示と、「紋別ストーリー(紋別の歴史と文化)」の通史展示により、学校との連携・活用を視野に入れた、学べる郷土学習の場としての展示展開が図られ、先史時代からの人々の歴史や文化、漁業、生活、農業、林業、鉱山などを、映像や模型、ジオラマ、実物資料などで、わかりやすく展示・紹介しており、「オホー

ツクシアター」では映像による紋別の歴史・文化・自然などの基礎情報を50インチ3連モニターで提供、「紋別情報ステーション」や「情報検索コーナー」ではコンピューターによる各展示内容の詳細情報などがタッチパネルで調べることができます。

また、かつて紋別にあった番屋を実大で復元し、当時の漁師の生活を再現するとともに、漁夫だまりを利用した昔語りや昔の遊びなどの番屋講座や、体験コーナーでのひも結びやむしろ編み、石臼引きなどの体験学習も用意しています。

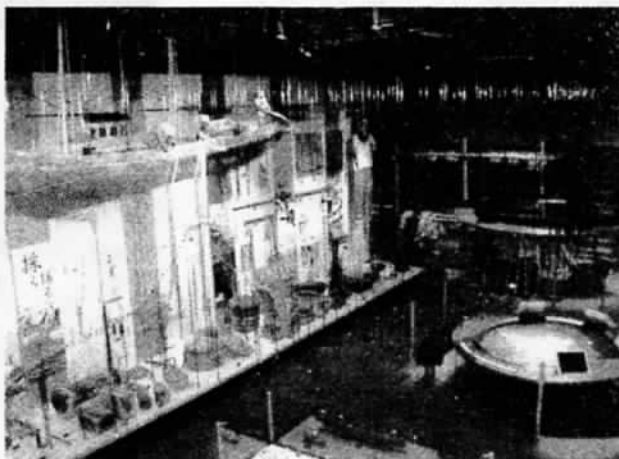
展示室前室では体長6メートルのコイワシクジラの骨格標本やトドの剥製、収蔵展示室にはアザラシ類や鳥類の剥製などや、各種産業や生活資料も収蔵展示しており、自由に見ることができます。博物館の入館料は無料。開館時間は9時30分から17時。祝日以外の月曜日と祝日の翌日(土・日を除く)、年末年始が休館。

お問合せ先：紋別市幸町3丁目1-4 紋別市立博物館 電話01582-3-4236 FAX01582-4-9755

(業務係長 佐藤和利)



紋別市立博物館全景



常設展示室の様子

館・園の主な展覧会と普及事業 (2002年6月～2002年10月)

- 石狩 江別市セラミックアートセンター(011-385-1004) 7.2～8.25 人間国宝加藤卓男シルクロード歴史展、9.4～22 陶&くらしのデザイン展、10月上旬(仮称)江別陶芸会展、作家展(予定)
- 札幌芸術の森美術館(011-591-0090) 6.30～8.18 イタリア・ルネッサンス三大巨匠素描展、8.24～9.25 ロバート・メイブルソープ展、10.1～20 フリードル先生とテレジンの子どもたち展、10.26～12.15 亀山良雄展
- 札幌市青少年科学館(011-892-5001) 6.1～7.31 宇宙の日文・絵画コンテスト、6.22～7.7 素材とかたちの科学=建築とE.トロハ展、7.2～8.2、9.4～9.29 移動天文台、7.3～7.7.31～8.4.9.4～8.10.2～6 札幌市天文台夜間、7.26～28.8.29～31 西岡天文台公開、7.27～8.18(仮)身体の中をしらべ隊、8.3～5.10.19.26 天文教室
- 札幌市豊平川さけ科学館(011-582-7555) 7.14 星置川さかなウォッチング、7.20 豊平川さかなウォッチング、7.21 発寒川さかなウォッチング、10・11月中 採卵実習、10・11月中 豊平川・琴似発寒川・星置川サーモン・ウォッチング、10・11月 サケの産卵行動
- 札幌市円山動物園(011-621-1426) 7.20～8.31 幼児・児童動物園画コンクール、7月上旬 1日飼育係、8月上旬 夏休みクイズ・スタンプラリー
- 石狩市教育委員会文化財・博物館開設準備室(0133-72-6123) 7～8月に2日間 縄文土器をつくろう
- 北海道開拓記念館(011-898-0456) 7.12～8.27 描かれた北海道-18・19世紀の絵画が伝えた北のイメージ、9.13～11.3 洞窟遺跡を残した縄文の人びと
- 北海道開拓の村(011-898-2692) 7.27 むらの講演会 岐阜から入植した人達、8.10 野幌開拓と越後魚沼、10.26 新十津川に入った奈良県十津川郷の人々
- 北海道立文学館(011-511-7655) 6.29～7.28 中沢茂“ひとりの賑やかさ”～根室と霧と芸術家たち～、7.30～8.2 夏のファミリー文学館、8.3～9.23 大自然に抱擁されて～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～
- 北海道立近代美術館(011-644-6881) 6.29～10.14 まなごしのドラマー画家とモデル、7.5～8.25 ゴッホ展、10.23～12.8 回想・北海道の25人、10.23～1.26 生命のかたち
- 千歳サケのふるさと館(0123-42-3001) 7.20～9.1 金魚の夏がやってきた、9.14～12.1 さかなたちの系図～悠久の進化史～
- 札幌市博物館活動センター(011-200-5002) 7.16.8.20 夜間講座 科学はロマン、6.29～8.3 世界最小の恐竜展、7月下旬 化石採取、8月上旬～9月上旬 札幌の水生植物展、8月上旬 昆虫採集、9月上旬～10月上旬 世界の蝶展、9月下旬 秋の自然観察会
- 渡島・檜山 北海道立函館美術館(0138-56-6311) 5.28～7.7 岩橋英遠展、7.16～9.1 極東ロシアのモダニズム1918-1928 ロシア・アバングアルドと出会った日本、9.10～10.27 聖母子と子供たち展
- 大船遺跡速報展示室・南茅部町福祉センター(01372-2-3789) 7.25～8.5 縄文メッセージ展、9月上旬～11月上旬 南茅部の古文書(仮)
- 江差追分館(01395-2-0920) 4.27～10.31 江差追分実演(財)開陽丸青少年センター(01395-2-5522) 7～8月 帆船体験と歴史学習事業、8月 開陽丸と親しむ事業
- 後志(財)荒井記念美術館(0135-63-1111) 4.16～12.15 ラ・セレスティース、4.16～7.7 ピカソの描いた横顔を巡って、4.16～8.25 色の魔術師・西村計雄、4.16～12.15 生まれ出づる悩み展、7.9～10.6 ピカソってどんな画家?
- 有島記念館(0136-44-3245) 6.15～9.15 ウィンドウ・ミュージアム-有島武郎 その思想と文学、6.29～11.5.5.5 武者小路実篤と北海道、6.29～11.5.5.5 有島武郎-その文学と風土(3) 作品とそのモデル達-カインの末裔・生まれ出づる悩み・親子
- 小樽市青少年科学技術館(0134-22-0031) 7.25～8.18 すばる望遠鏡展
- 小樽水族館(0134-33-1400) 7.20～9.16 オット!危ない海辺の生物展、7.29～31.8.5～7 水族館体験隊、7.26.27.8.1～3 磯の生物観察会、9.1～11.24 バックヤードツアー、8.4.9.23.10.6 魚拓実演会、9.23～10.6 全道幼児児童画入選作品展
- (財)北一ヴェネツィア美術館(0134-33-1717) ～9.8 ガラス界の巨匠 ピノ・シニョレット展、9.9～3.16 ゴッホモザイク展
- 木田金次郎美術館(0135-63-2221) 7.3～10.29 西と東の交感-木田金次郎と茂木幹展、7.3～7.28 三館共同デッサン展、9.1～9.16 第8回ふるさとこども美術展
- 小川原脩記念美術館(0136-21-4141) 7.3～7.28 三館共同デッサン展、7.31～9.1 第44回麓彩会展、9.5～9.29 麓彩会の作家-1、10.2～10.27 麓彩会の作家たち-2
- 西村計雄記念美術館(0135-71-2525) 4.18～9.10 画業を辿る展覧会 系かきの目、6.16 虹型体験講座、7.3～28 三館共同デッサン展、9.12～16 北海道立近代美術館コレクション名品展、9.21～1.19 開館3周年記念展、10.26 開館記念コンサート
- 空知 砂川市郷土資料室(0125-52-2339) 8.1～8.19 阿部尤三氏コレクション展、10.1～11.3 変わりゆく砂川
- 美幌市郷土史料館(0125-23-0502) 6.20～7.7 しゅんこう和紙ちぎり絵展、6.22、7.18、8.10、9.8、9.21、10.26 映画会、7.18～9.15 民具は語る展、8.9 体験学習講座 作って遊ぼう、9.19～29 くるみ絵展、10.3～10.27 宮西博写真展
- 星の降る里百年記念館(01242-4-2121) 7.19～8.25 世界の大昆虫展、7.27.8.24 縄文土器づくりと野焼き、8.7、8 昆虫標本づくり教室、8.31 化石探索会、9.7 森のキノコ観察会
- 三笠市立博物館(01267-6-7545) 7.27～8.25 イノセラムス展、7.26.8.3.4.9.14 自然観察講座
- 上川 旭川市青少年科学館(0166-22-4171) 4.23～9.22 色の秘密をさくろう展(サイエンス展示・実験ショー・アイデアコンテスト受賞作品展)、10.16～11.17 おもしろおもちゃ探検館
- 旭川兵村記念館(0166-36-2323) 特別展 加藤健夫 単戦闘大隊展
- 士別市立博物館(01652-2-3320) 7.27～8.18 士別商店街史展、9.14～9.26 日本版画協会巡回展
- 中原悌二郎記念旭川彫刻美術館(0166-52-0033) 7.6～9.23 中原悌二郎賞受賞作品展 岩野勇三展、9.28～10.27 あさひかわの彫刻家 関 秋宏展、8月下旬 親と子の彫刻教室、6.20.26 旭川彫刻散歩、9.7.14 札幌彫刻散歩
- 名寄市北国博物館(01654-3-2575) 7.20～8.25 じゃがいもとかぼちゃ展、7.27～7.28 薬用植物ワークショップ、7月中旬～8月上旬 土笛づくり、9.5～9.22 木のテーマ展、9.26～10.6 農機具いろいろ展③刈り入れ、9月中 古建築物バスツアー

一、10.8~10.20 MOA美術展

富良野市博物館(0167-42-2407) 7.14 自然観察会 森のナイトウォーク、7.14 見学会 博物館・美術館めぐり、9.1~10 巡回展 昭和のこどもたち、10.6 紅葉を楽しもう、10.1~11.20 写真展 操上和美の世界

小さな貝の博物館(0167-45-6810) 北海道のカワシンジュガイを守ろう、午年の貝

留萌 金田心象書道美術展 (01632-5-2720) 第12回心象書道展

留萌市海のふるさと館(01644-3-6677) 7.20~8.24 アンモナイト化石の世界展、10.17~10.27 巡回展 街のうつろい、8.4 磯の観察会、10.27 秋の観察会

北海道海鳥センター (01646-9-2080) 8月海岸観察会、9月海鳥フェスティバル

網走 美幌博物館 (01527-2-2160) 6.9~7.14 寄贈資料展、7.28~10.27 北海道ゆかりの作家たち展 美幌博物館収蔵作品から、7.28~8.11 ハーブ展、9.15~11.17 美幌の主な農産物

博物館網走監獄 (0152-45-2411) 9.14 二見農園体験、9.15~24 収穫祭

上湧別ふるさと館 J R Y(01586-2-3000) 5月~11月 体験学習 体験農場、7.15~8.15 着てみよう昔の服 展、8月上旬 屯田フォーラム、9.12 谷川俊太郎親子コンサート

北網走北見文化センター(0157-23-6700) 7.27~8.25 日本近代彫刻の流れ展、8.28~9.5 夏休み作品標本展、9.7~12 写真道展北見移動展、9.14~29 オホーツク美術展、10.2~20 市民芸術祭、10.23~27 第48回きたみ成美会展

胆振 伊達市教育委員会(0142-21-5213) 7.21~8.10 発掘された日本列島2002展、北黄金貝塚公園体験学習 7.1~31 土器・土偶づくり、8.1~31 黒曜石のナイフづくり、9.1~30 火おこし体験、10.1~31 石斧づくり、7.28,8.25,9.29,10.27 縄文ロビー展、8.18 土器焼き、9.7,8 だて噴火湾縄文まつり、10.20 コクワジャムづくり

苫小牧市博物館(0144-35-2550) 7.6 観察会 新緑の森観察会、7.26~8.6 体験学習 親子土器作り教室、9.28 観察会 地層観察会

登別市郷土資料館(0143-88-1339) 7.13,30,31 夏休み工作教室、8.24 絞り染め体験、9.28 フクロウ作り体験、10.26 動くおもちゃ作り体験

穂別町立博物館(01454-5-3141) 7.1~7月中旬 穂別町立博物館の20年展(仮)、7.20 開館20周年記念講演会・討論会 化石のまちの博物館、8.31~9.27 穂別のカメラ化石展(仮)

日高 静内町郷土館 (01464-2-0394) 8.1~31 (仮) 職人の道具展、8月~9月 おやこ塾、9月 静内歴史散歩、

新冠町郷土資料館 (01464-7-2694) 探検クラブ 7.13 太陽地区を探検、7.27 厚賀沢を探検、8.8,9 少年アドベンチャーランド、8.27 町外の博物館を探検、9.14 明和と万世を探検、9.28 判官館を探検2、10.12 学習成果をまとめよう、9.22 新冠を知ろう講座1 ふるさと新冠めぐり

日高山脈館(01457-6-9033) 夏 北海道の鉱物展(仮)、秋 写真展 ナキウサギの声が聞こえる、8.7 森で過ごす1日、9.15,16 プロジェクトワイルド講習会、10.13 地球の授業

十勝 浦幌町郷土博物館(01557-6-2009) 7.30~9.22 祈りの考古学展、7月 アイヌ文様刺繍講座、化石のレプリカづくり教室、8月 絞り染め教室、9月 入門うらほろ学、アートクレイシルバー教室、せんべい焼き教室、10月 親子 パードテーブルづくり教室

帯広百年記念館 (0155-24-5352) 7.14 原生花園を調べよう、7.20 仮面が来た道、7.27 遺跡を掘る、7.30~8.18 小林満枝~日本画の世界、9.14~11.10 120年より前の帯広展、9.21 百年記念館を探検する、9.29 シンポジウム自然とアイヌ文化、10.19 講演会 遺跡が語る大昔の帯広・十勝、10.27 現代の職人教育とまちづくり

神田日勝記念館 (01566-6-1555) 8.12~19 木村希八の世界、8.24 第10回馬耕忌、10.16~21 馬の絵作品展

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963) 7.12~9.16 十勝新時代V 池田緑展、7.12~9.16 ニルス=ウド展【自然へ】、9.27~11.14 凍土：魂のマチエール寺島春雄展、9.27~1.10 でこぼこ・ざらざらー見る触感

本別町歴史民俗資料館 (01562-2-2142) 7.10~30 わが町の7月15日展、8.12~9.15 本別の化石の謎を探る、9.28 義経の里を歩く、10.1~11.30 本別義経伝説展

足寄動物化石博物館(01562-5-9100) 7月下旬~8月中旬 貝化石・井上コレクション展、7~9月下旬 ふるさとあしよる探検隊、7.7,8,11,9.8,10.13 あしよる化石教室、8.10 体験教室

釧路 釧路市立博物館(0154-41-5809) 7.25~8.21 釧路の昆虫展、8.24~9.8 おさかなセミナーくしろ2002パネル展、7.28 昆虫の名前を調べる会、8.1 化石レプリカ教室、8.10 講演会 昆虫の話(仮題)、10.10 総合学習のための展示解説、7.31 体験講座 せんべいをつくろう、9.29 第13回博物館まつり

標茶町郷土館(01548-7-2332) 標茶町郷土館講座

北海道立釧路芸術館(0154-23-2381) 7.20~9.16 バビエ・ア・ラ・モード、9.28~11.24 《画業》55年赤穴広展

根室 標津サーモン科学館(01538-2-1141) 7.1~ オオムラサキ展、10~11月 シロザケの採卵実習

中標津町郷土館(01537-2-2190) 7.27 コウモリ観察会

役員異動

新年度の人事異動等により役員の交代があり、次の方が新役員に就任されました。

副会長 北村 健一氏 (札幌市円山動物園長)

佐藤 俊和氏 (北海道近代美術館長)

藤川 治氏 (帯広百年記念館長)

理事 奥宮 格氏 (釧路市立博物館長)

佐野 幸治氏 (市立函館博物館長)

丹治 輝一氏 (北海道開拓記念館芸芸部長)

濱谷 征夫氏 (静内町郷土館長)

中村 齋氏 (白老町アイヌ民族博物館長)

南川 和廣氏 (滝川市美術自然史館長)

新会員の紹介

平成14年度、次の団体・個人賛助会員が加入しましたのでご紹介いたします。

団体会員 小さな貝の博物館 (上富良野町)

個人会員 鈴木 康雄 氏 (札幌市)

賛助会員 (株) 京都科学東京支店 (東京都)

平成14年度事務局体制

事務局長 山田悟郎

事務局次長 笹木義友・小林幸雄

事務局員 林昇太郎・添田雄二・鈴木琢也

会費納入のお願い

新会長が就任いたしました。会費納入にあたっての混乱を避けるため、6月中は納入口座の名義変更をしません。7月1日より、会長 山田家正に変更いたします。詳細は事務局まで。